

「これからの布」を考えました・・・本気でまじめに。純木綿、がら紡ウールガーゼを草木で染めました。『本気布（マジギレ）』

Q がら紡って、なに？

明治時代に発明され岡崎から全国へと広がった『がら紡』は「日本の産業革命」と言われる貴重な紡績機械。現在では数軒の工場しか残っていません。「手だけ」で紡いだような自然で優しい糸を作る紡績機です。綿から指で綿を引っ張り出してねじると、あら？不思議！指先で綿は糸に変身。柔らかくて太くて節があって綿の風合いがそのまま。がら紡糸はそんな「手紡ぎ」の糸にそっくり。がら紡の糸や布を触っているとなぜか懐かしい気持ちになるのは、手紡ぎ糸の燃りの甘さと綿のふくらみそのままの糸だからではないでしょうか？

凸凹のがら紡布が心地よく綺麗にしてくれます。肌にも優しいので、洗濯、浴用、赤ちゃんの沐浴布として好評



シャツの襟元にお洒落に防寒にも

水やお湯だけで洗いましょう！

がら紡布
三河布史（みかわぶし）
タオルサイズ

7500 生成（無染色）
1枚 1,500円（税込1,620円）

〈素材〉綿100%（がら紡糸使用）
〈サイズ（約）〉20×90cm（生産国）日本

がら紡布
三河布史（みかわぶし）
ハンカチサイズ

7501 生成（無染色）
1枚 700円（税込756円）

〈素材〉生地：綿100%（がら紡糸使用）
〈サイズ（約）〉30×30cm（生産国）日本



みかわぶし

〔三河布史ができるまで〕

100年前はどのように布を作っていたのかな？そんな疑問から出発した布作り。『三河布史』は昔の機械（がら紡機、力織機（ちからおり））を使い、昔の布洗い（和晒（しほ））で仕上げた私どもの考える「むらくも」布。合成繊維や合成洗剤などを使わなかった頃の布の風合いをお確かめください。



①木綿を原料に



②がら紡機で糸を紡ぎ



③昔ながらの「力織機」



④「和晒」で自然な洗い上げ



⑤縫製工場で一枚ずつ縫い上げました

三河布史の完成

がら紡手編みニット わたぼうし

7508 わたぐも
7509 むらくも

各1枚 6,500円（税込7,020円）

〈素材〉綿100%（がら紡糸使用）
〈サイズ（約）〉周囲55cm
〈洗濯〉手洗い・陰干し（生産国）日本

牧群の柔らかさを持つがら紡。表現するには手編みが一番！手編み作家の“om am”さんに心を込めて編んでいただきました。



わたぐも



むらくも

純木綿 ゆるゆる五本指くつした けっこう快適

7514 茶綿（ちやめん）
7515 白綿（しろめん）
7516 緑綿（みどりめん）

各一足 1,200円（税込1,296円）

〈素材〉綿95%、ポリウレタン5%
〈サイズ（約）〉フリー（22〜26）cm
〈洗濯〉洗濯機（ネット）・陰干し（生産国）日本



お試し3枚セット

お試しの口にしからににも
優しい肌
毎足の部分：柔らかいガーゼ
生体部分：国産純木綿

Sあかね（黄）

あかね（黄）

黄（玉本布）

ペーシェ（よもぎ）

緑（ローズマリー）

黒（玉本布）

生地メーカー

A『がら紡』は日本の宝物です



お待ち SALE 特別企画



7506 M・生成&L・五倍子セット

がら紡くつした ほっこり

7502 M・生成（無染色）
7503 L・生成（無染色）
7504 M・五倍子（ごばいし）
7505 L・五倍子（ごばいし）

各一足 3,500円（税込3,780円）

〈素材〉綿95%（がら紡糸使用）、ナイロン3%、ポリウレタン2%
〈サイズ（約）〉M 22〜24cm、L 24〜26cm
〈洗濯〉手洗い・陰干し（生産国）日本



生成（無染色）

五倍子（ごばいし）

がら紡の糸の太さを存分に生かして、弾力のあるくつしたを作りました。履き心地はまさに「ほっこり」家履きくつした、お休みにおすすめです。また重ね履きにも大いにおすすです。

お得ほっこりセット 約20%OFF!!

7506 M・生成 & L・五倍子セット
7507 M・五倍子 & L・生成セット
各セット **5,555円**（税込**5,999円**）

がら紡 ざっくりリストール

7510 生成（無染色）
7511 あかね（茜）
7512 淡黄（カリヤス）
7513 灰（野いばら）

各1枚 7,000円（税込7,560円）

〈素材〉生地（草木染め）：綿100%（がら紡糸使用）
（※7510は無染色）
〈サイズ（約）〉幅16cm×長160cm〜180cm
〈洗濯〉手洗い・陰干し（生産国）日本



むらくも（生体）

わたぐも（あかね）

西洋の糸と日本の糸

今年、群馬県の「富岡製糸場が世界遺産に登録」の明報が届いたのは記憶に新しいことですね。日本の繊維産業が世界に与えた影響を大きく評価されたことは衣料に携わる私たちにあって嬉しい限りです。

ところで、私たちが取り組んでいる「本気布」はがら紡なのですが、がら紡と富岡製糸場の違いはなんですか？

富岡の原料は絹であり、がら紡は主に木綿。富岡は明治5年創業、がら紡は明治12年頃操業開始。富岡は官営工場、がら紡は民営工場。そして何よりの違いは富岡は西洋式紡績機であり、がら紡が日本で発明された和紡績機であるということではないでしょうか？



灰（野いばら）

明治初期に日本の近代機械産業はほぼ同時期に西洋紡と和紡が官営と民営によりスタートしていたのです。写真は現在、愛知県岡崎市に遺されているがら紡の水準の遺構です。

西洋風の富岡の堂々たる建築とは違い、小柄で和風で美しいですね。世界の歴史は変えなかったけれど、江戸時代から引き継いだ工業技術の高さを立証し、日本の産業革命として賞賛されるがら紡がこれからは皆さんに愛され、生み出される布が生活の必需品として使われ続けられていくことを願ってやみません。